

# 街路樹観察会



2012年6月15日

千葉大学の藤井英二郎先生に同行いただき千葉駅前プロムナード周辺を観察した後、事務所で街路樹についてお話を伺った。

## 1. 地下支柱のアンカー・深鉢、鉄枠について

アンカー（支持）ベルトや鉄枠が幹に食い込み、木を痛めている。一時期多くの都市で採用された工法だが、地上支柱と比べ工事費用が10倍ぐらい高



いため、撤去工事の発注がされず全国的に問題になっている。深鉢を使って深めに木を植えるのだが、根元が締め付けられるために栄養分が幹の元にたまり、根元が太くなる。駅前のケヤキが低いところで枝分かれしたり、今年出た枝先が短くなるなど樹勢が悪いのは、根がしっかり張れないためと考えられる。

## 2. 地上支柱

根は幹が風を受けることによって育つので、いつまでも支柱があると根が伸びない。



## 3. 損傷

根の発育が阻害されたり強剪定を受けたりすることで、木にストレスがかかり幹から枝が出る（胴吹き）。また、木が弱っていると木肌も荒れた状態になる（ボロボロに剥がれる）。導管は幹の表面にあるので葉は茂るが、幹の中の（心材腐朽菌による）空洞が木の直径の7割を超えると大風で倒れる危険性がある。



## 4. 剪定

先端を二本残す方法がある。剪定は季節を誤ると枯れ下がりの原因になる（例：マテバシイは暖地性なので冬季剪定はダメ）。自然な樹型を崩すような剪定（強剪定）はやらない。道路標識の高さ（4.5メートル）に合わせて剪定する。

## 5. 植栽マス

植栽時は土壌改良のために下の土壌との攪拌が必要だが、それが行われていないことが多い。赤土やコンクリート廃材が混ざっている土壌（アルカリ性）で根は張らない。自転車の路駐が多く、街路樹の景観を損ねている。



## 6. 行政は

専門家による評価や、市民に街路樹の役割や実態を理解してもらう機会を持つことが必要。街路樹は、管理だけでなく設計が大切。担当者が代わった時に管理情報の申し送りを徹底させることも大切。ホームページでの広報や、今回のようなウォッチング企画もあるとよいのではないかな。

## 7. 管理費

街路樹管理費用のダンピングをさせない（最低限の費用は確保する）。財政難の中、街路樹管理は予算削減を前提に進められるが、本来街路樹のあるべき姿から管理を考えていく必要がある。

## 8. その他

- ・プラタナスは根が浅いので、成長し過ぎると倒れやすい。
- ・千葉市にふさわしい街路樹は、ケヤキ、クスノキ（耐潮性）、マテバシイ、タブノキ、ザイフリボク（狭い所）、エンジュ、プラタナス、アオギリなど。
- ・虫が発生しても環境がよければ鳥が食べてくれる。
- ・街路樹があることで人が歩道を安心して歩け、また、自動車を運転する人にとっても視界を程よく遮ってくれるので運転しやすい。
- ・公開空地があると建ぺい率が上がるため、ビル街の無理な植栽が増える。

## 9. 感想



植物の悲鳴が聞こえてきた。街路樹が現代社会に果たす役割の大きさを思うと、私たちはなおさら樹木の生命力を大事にしていく姿勢が大事だと感じた。